

令和6年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標Ⅱ 【 社会性を養う教育内容の充実 】

1 現状及び課題、並びに評価項目

現 状	課 題	評価項目（達成目標）
○学生は、将来農村社会を担う者として、社会性が求められるが、コミュニケーションが苦手であったり、規律性に対する意識が低いなど、社会人として必要な資質が低い学生が散見される。 ○当校は、地域で指導的な役割を果たす優れた農業経営士や農業法人経営者等とは、派遣実習等を通じて交流がある。また、当校卒業生の中には地域で活躍している者がおり、社会人として必要な資質を学ぶうえで協力を得られやすい環境にある。	○外部講師による講演や実習を通して、学生のコミュニケーション能力など、社会人として必要な資質を向上させる	社会人としての資質向上 ・コミュニケーション能力が向上した学生の割合 100%
○寮生活や学生の自治会活動は、様々な人の考えや問題を目的に沿って議論し、取りまとめ、ルールに基づき行動するといった、社会に出て必要な、自立や協調の精神を養う機会として、農大教育の重大な柱となっている。	○学生同士の交流を促し、学生が寮や各活動を自主的に運営できるようにする。	学生活動の充実 ・委員会活動回数 （農業部・園芸部各々年 12 回） ・環境美化活動回数 （農業部・園芸部各々年 4 回） ・学生自治会活動回数 （農業部・園芸部各々年 5 回）

2 評価項目別の評価及び次年度の課題等

（1）社会人としての資質向上

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）	達成度の評価基準	
コミュニケーション能力が向上した学生の割合 100%	B	農業者や有識者による特別講義では、目標の 100%には達しなかったが、90%以上の学生が内容に理解を示し、社会人としての資質やコミュニケーション能力の向上につながった。 校内・校外直売実習においては、積極的に接客できたとの意見もあり、コミュニケーション能力の向上につながった。	作物を栽培するだけでなく、販売や経営のことも考えると、コミュニケーション能力を向上させることは重要である。 達成度の評価基準と照らし、B評価は適当である。	A	100%達成
				B	80～99%の達成
				C	60～79%の達成
				D	40～59%の達成
				E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【継続】農業者による特別講義の実施 ・社会人としての資質を身に付けるため、農業経営士、農業法人経営者、女性農業士、青年農業士等による講義を実施する。 農業部 3 回、園芸部 1 回 【R5実績：農業部 3 回、園芸部 1 回】	ア 農業者による特別講義の実践 【取組実績】 ・農業経営士等から農業技術や経営意識に関するもののほか、社会に出てからの心がまえとして、コミュニケーション能力の必要性や好奇心の醸成、自分の行動に対する責任等について助言を得た。 （ア）雇用就農促進講座 ・農業部：5/15（2 年生）、12/3（1 年生） ・園芸部：7/5（1、2 年生） （イ）特別講義 ・農業部：12/6（1、2 年生） 【成果】 ・アンケート調査による雇用就農促進講座の理解度は 94%と高く、農業経営士から話を聞くことで、社会人としての資質について学ぶことができた。	ア 農業者による特別講義の実施 ・農業者による特別講義は、社会人として必要な資質を学ぶ機会となっているので、引き続き、先進的な農業経営者からの講話や時代に沿ったテーマで講義を実施し、社会人としての資質について学ばせていく。	

イ【継続】コミュニケーション能力向上のための教育の実施 ・有識者による講演を実施する。 農業部2回、園芸部2回 【R5実績：農業部3回、園芸部2回】 ・農産物直売活動における商品知識や接客〔挨拶、言葉遣い等〕について事前に学習するとともに、顧客との対面による接客を実施する。 農業部、園芸部で各2回/月以上 【R5実績：販売実習活動1～2回/月】 ・効果確認アンケートの実施 ウ【継続】資格免許等の取得促進 ・免許取得の促進のため、学生への情報発信、助言・指導を行う。 延べ資格免許の取得数：15種類 【R5実績：14種類】	イ コミュニケーション能力向上のための教育の実施 【取組実績】 ・有識者による講演を実施し、学生が企業等を訪問する際の、基本的なマナーやコミュニケーション能力・面接スキル等について学び、農産物直売活動を通じて実践した。また、講演等の学習効果を確認するため、効果確認アンケートを実施した。 (ア) 就職ガイダンス ・農業部：3/4（1年生） ・園芸部：2/12（1年生） (イ) 特別講義「いばらき 暮らしのセミナー」 ・農業部：7/5（1、2年生及び研究科） ・園芸部：7/3（1、2年生） (ウ) 農産物直売活動の実施 ・農業部：校内直売所では、選択授業の農産物販売実習として43回、また、校外販売実習をイオンタウン水戸南等、7回実施した。 ・園芸部：校内直売所では専攻実習の一環として、9回、また、校外販売実習を坂東市役所等、12回実施した。 【成果】 (ア) 就職ガイダンス 基本的なビジネスマナーや、面接時の対応について学ぶことで、コミュニケーション能力の重要性について意識する機会となった。 (イ) 特別講義 ・特別講義では90%の学生が講義内容に対して理解を示しており、社会に対する関心やコミュニケーション能力の向上に関心を示していた。 (ウ) 農産物直売活動の実施 直売活動では積極的に客と接する姿勢がみられ、コミュニケーション能力を学ぶ機会となった ウ 資格免許等の取得促進 【取組実績】 ・教務職員からの情報提供のほか、農業者による特別講義等でも必要な資格についての助言・指導をいただくなど、免許取得の促進に努めた。 【成果】 ・延べ資格免許取得数：14種類 ・主な取得資格 ①大型特殊免許、②刈払機、③小型建機、④農業技術検定（3級）、⑤農業経営簿記（3級）、⑥家畜人工授精師、⑦フラワー装飾技能士 等。 ・農業技術検定1級、農業経営簿記2級などより高度な資格について、結果は取得できなかったが、新たに受検にチャレンジするなど、資格取得に対する積極性がみられた。	イ コミュニケーション能力向上のための教育の実施 ・引き続き、コミュニケーション能力を向上させるため、特別講義による意識向上や販売実習による実践を継続していくとともに、プロジェクトや卒研発表時の対応を評価するなど、普段の学習活動の中で、コミュニケーション能力の向上を意識した学習指導を行う。 ウ 資格免許等の取得促進 ・資格について関連する授業の中で、具体的な事例を示しながら資格免許取得の必要性について理解を促し、学習指導を実施する。	・コミュニケーションがあまり必要でないという理由で農業を選択する場合もあるが、一方で、商売するにはコミュニケーションが大事である。 ・直売所での販売を経験するなどの体験をすれば得られるものが必ずある。 ・3分間スピーチ、ディベートなどを授業に取り入れてはどうか。 ・他者理解、協調する精神を養うことが大事である。 ・資格試験の取得は、客観的に評価ができる事項である。自分自身の就職活動に活かせる等で学生の意識向上につながる。【田場】
--	--	--	--

(2) 学生活動の充実

達成目標	達成度	評価の概要	関係者評価委員会からのコメント（全般）	達成度の評価基準	
・委員会活動回数 （農業部・園芸部各々年24回） ・環境美化活動回数 （農業部・園芸部各々年4回） ・学生自治会活動回数 （農業部・園芸部各々年5回）	B	学生活動については、委員会活動については、農業部 32 回、園芸部 30 回と、目標以上の活動回数となった。環境美化活動は農業部 4 回、園芸部 5 回、学生自治会活動は農業部 6 回、園芸部 4 回と、教務職員からの助言。指導もあり、ほぼ予定通り実施され、学生の自主性や協調性を養う場である学生活動を充実させることができた。	活動実績から職員の苦労は容易に想像できる。目標は、活動の実施回数だけでなく、その中身についても評価できるものにしてほしい。 達成度の評価基準と照らし、B評価は適当である。	A	100%達成
				B	80～99%の達成
				C	60～79%の達成
				D	40～59%の達成
				E	39%以下の達成

目標達成に向けた具体的方策	具体的方策の取組実績及び成果	次年度の課題	関係者評価委員会からのコメント
ア【継続】学生活動に関する情報の共有 ・農業部・園芸部の職員が学生の活動状況を共有し、学生に対して共通認識をもって助言・指導ができるよう、生活指導委員会を開催する。 生活指導委員会開催回数：3回/年 【R5実績：2回/年】 イ【継続】寮の生活環境改善への助言・指導 ・職員が、寮の巡回を月1～2回程度行い、寮に関する課題を確認しつつ、生活環境の改善について自治会が主体的に取り組めるよう、自治会長や関係委員会に助言・指導を行う。 助言・指導：随時 【R5実績】委員会活動数：農業部 28 回・園芸部 14 回 環境美化回数：農業部 5 回、園芸部 4 回 ウ【継続】学生自治会活動への助言・指導 ・学生が各種活動を自主的に計画・実施できるよう、助言・指導を行う。 主な活動予定 農業部：新入生歓迎会、体育祭（5月）、学科・コース大会（6月）農大祭（11月）、東関東農大交流会（11月）、2年生を送る会（2月） 園芸部：体育祭（5月）農大祭（10月）、東関東農大交流会（11月）、地域美化活動（1月）、2年生を送る会（2月）	ア 学生活動に関する情報の共有 【取組実績】 ・生活指導委員会を実施し、長岡キャンパス、岩井キャンパスにおける寮運営の在り方や、学生活動について情報交換を行った。 第1回：7/18、第2回：10/11 【成果】 ・情報の共有化を図ることで、学生活動について適切に助言・指導を行うことができた。 イ 寮の生活環境改善への助言・指導 【取組実績】 ・基本的な学生活動の運営、施設の管理・利用方法について指導した。 （ア）各委員会活動回数 ・農業部：32 回（執行委員会 23 回、美化委員会 4 回、体育委員会 5 回） ・園芸部：30 回（執行委員会 8 回、美化委員会 4 回、厚生委員会 1 回、体育委員 17 回） （イ）環境美化活動回数 ・農業部：4 回 ・園芸部：5 回 【成果】 ・教務職員の助言・指導により、執行委員会の活動も活発に行われた。 ウ 学生自治会活動への助言指導 【取組実績】 ・各活動に関しては、主に全体のスケジュール管理に関して助言、指導を行った。 （ア）新入生歓迎会 ・農業部では4月から6月にかけて各科、コース別に実施した。 （イ）体育祭（5/24） ・今年度は園芸部が主担当として、農業部と協力しながら実施した。園芸部の学生が少ないことから、種目を見直し、コンパクトに体育館のみで実施できるようにした。	ア 学生活動に関する情報共有 ・学生に対して適切に助言・指導が実施できるように、引き続き生活指導委員会を適切な時期に開催し、情報の共有を図る。 イ 寮の生活環境改善への助言指導 ・寮の生活環境改善について、自治会として自主的な行動ができるように、引き続き助言・指導を行う。 ・園芸部は学生数の減少により、学生による寮の管理・運営が厳しくなることが予想されるので、運営の省力化・効率化を踏まえた助言・指導を行う。 ウ 学生自治会活動への助言・指導 ・学生自治会活動については引き続き、学生がより主体的に活動に関われるように、スケジュールに注意し余裕を持って行動できるように助言・指導を行う。 ・園芸部では、学生数が減少することから、学生数のが少なくても実施し、楽しめるように、助言・指導を行う。	・自治会活動で実施することが目標になっているが、回数だけでなく、その過程の中身も大切である。

【R5実績：農業部：年6回、園芸部：年5回】	(ウ) 農大祭 ・農業部は4月から、園芸部は7月から月1～2回程度、実行委員会による打ち合わせを行い、農業部では11/9、園芸部では10/19に開催した。(参加人数：農業部 1,574名、園芸部 1,100名) (エ) 東関東農大交流会 ・5/23、10/19にオンラインによる打ち合わせを実施し、11/22に栃木農大の農大祭に参加した。(参加者：農業部自治会役員、農大祭実行委員 計21名) (オ) 2年生を送る会 ・農業部、園芸部ともに、2/7に実施した。 (オ) その他 ・農業部では学生同士の交流を図るため、学科、コース対抗のスポーツ大会を6/25に実施した。 ・園芸部では1/10に実施する歩く会の中で、地域環境美化のためゴミ拾いを実施した。 【成果】 ・体育祭については、コンパクトにまとめた結果、学生同士の交流が、より密に行うことができた。そのほかの活動についても予定通り実施することができ、学生の自主性や協調性を養う場である学生活動を充実させることができた。		
-------------------------------	--	--	--